



米子市長定例記者会見資料	
令和6年8月16日	
担当課 (担当者)	学校教育課 仲倉
電話 (0859) 23-5432	

報道機関 各位

「教育支援センター～ぷらっとホーム～」について

令和4年8月に開所した「教育支援センター～ぷらっとホーム～」の2年間の取組及び成果・課題等について、以下のとおり報告します。

1 取組

(1)学習支援

- ・ICTを活用した学習支援（一人一台端末、学習アプリ「すらら」等の活用）
- ・個々の学びの状況に応じた学習支援
- ・中学校と連携しての定期テストの実施

(2)創作体験活動

- ・支援員による活動支援（毛筆、硬筆、水彩、ミニチュア、ジオラマ制作、プログラミング、裁縫、手芸、調理、マジック教室 等）
- ・外部講師による体験活動（プログラミング教室、臨床美術教室、そば打ち体験教室、パラスポーツ体験、手話教室 等）

(3)地域での学習

- ・大山周辺散策
- ・城山散策、プラネタリウム見学
- ・境漁港、水木しげる記念館見学
- ・大山赤松の池カヌー体験
- ・社会科見学（サントリー奥大山工場等）
- ・野鳥観察、創作活動 等

(4)児童生徒同士のコミュニケーション活動

(5)児童生徒・保護者との相談活動

(6)運動や音楽等の個人活動

(7)学校やスクールソーシャルワーカーとの連携による支援

(8)スクールカウンセラーによる面談（希望者）

(9)進路説明会（対象者：中学1・2年生）

2 利用児童生徒

	令和4年度	令和5年度
①利用した児童生徒数	37名 (小学生20名中学生17名)	46名 (小学生21名中学生25名)
②中学校3年生進学率	100%	100%
③学校復帰児童生徒	15名（年度内復帰6名）	20名（年度内復帰7名） ※令和6年1学期末現在

3 支援体制の整備・拡充

ここ数年の不登校児童生徒数の増加、子どもたちの生活上の課題の多様化などにより、学びの場としての本市「教育支援センター～ぷらっとホーム～」の果たす役割は大きくなってきている。こうした中、多様なニーズに応えるために、ハード、ソフトともに開所当初よりも充実させてきている。近年の不登校児童生徒が増加している状況に鑑み、利用を希望する児童生徒の増加や多様化が予測されることから、今後もより一層の体制整備と支援内容の充実を図る。

- ・常駐する支援員の増員（開所時3名→令和6年度7名）
- ・利用教室の整備（令和6年度）
- ・トイレの改修（令和6年度）

4 その他

学校に通いづらい子どもの居場所、学びの場として「教育支援センター～ぷらっとホーム～」のほか、校内の居場所づくりとして市内2小学校と9中学校（県事業4校・市事業6校・組合事業1校）に「校内サポート教室」を設置している。様々な理由で学校に行きづらくなっている子どもたちに多様な選択肢を提供するとともに、学校復帰を希望する子どもに対しては、「教育支援センター～ぷらっとホーム～」と「校内サポート教室」が連携し、スムーズな復帰になるよう努めている。「校内サポート教室」については、校内での教室以外の居場所として機能しており、不登校への早期対応、未然防止という点においても大きな役割を担っている。

5 問い合わせ先

米子市教育委員会事務局学校教育課 仲倉
電話番号 (0859) 23-5432